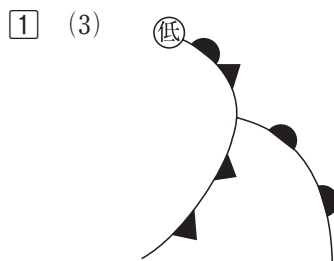


〈解答〉

- ① (1) エ
 (2) B
 (3) 右図
 (4) ① イ ② イ (両解)
 (5) 停滞前線
 (6) ① イ ② イ (両解)



配点 各1点 6点満点

〈解説〉

- ① (1) 日本列島を含む中緯度帯（北緯30度～60度）の上空には、風速50m/sを超える西風が一年中ふいている。この風を偏西風といい、移動性高気圧や温帯低気圧がおよそ西から東へと移動するのは、偏西風によるものである。また、太平洋高気圧のふちに沿うように日本付近までゆっくりと北上して東寄りに進路を変えた後の台風は、偏西風の影響を受けて速度を急に上げることが多い。
- (2) 1図で、前線Pは寒冷前線、前線Qは温暖前線である。これらの前線にはさまれた区域（温帯低気圧の中心の南側）には暖気が、寒冷前線の西側と温暖前線の東側の区域には寒気が位置している。したがって、1図のBの部分の地表付近は暖気に、AとCの部分の地表付近は寒気におおわれている。
- (3) 寒冷前線、温暖前線、および寒冷前線が温暖前線に追いついてできる閉そく前線は、それぞれ右の図のような前線記号によって表す。なお、これら3種類の前線を図示するときには、前線が進んでいく側に前線記号をつけるようにする。
- (4) 温暖前線の前方（東側）では、ゆるやかな上昇気流によって水平方向に発達した乱層雲の影響で、広い範囲におだやかな雨が降っている。また、寒冷前線の後方（西側）では、急激な上昇気流によって垂直方向に発達した積乱雲の影響で、せまい範囲に激しい雨が降っている。また、温暖前線が通過すると、寒気の範囲から暖気の範囲に入るので気温が上昇し、寒冷前線が通過すると、暖気の範囲から寒気の範囲に入るので気温が低下することが多い。さらに、温暖前線が通過する前はおよそ南東、温暖前線が通過してから寒冷前線が通過するまではおよそ南西、寒冷前線が通過した後はおよそ北西の風がふくことが多い。
- (5) 2図の前線を停滞前線といい、停滞前線には、6月頃から7月頃にかけてできる梅雨前線や、夏の終わり頃から秋の初め頃にかけてできる秋雨前線などがある。
- (6) 夏の前後には、北海道付近に位置する、寒冷で湿ったオホーツク海気団と、太平洋上に位置する、温暖で湿った小笠原気団の勢力が、ほぼつり合った状態になる。



そのため、オホーツク海気団からの寒気の流れと、小笠原気団からの暖気の流れが日本列島付近で衝突する。暖気の方が寒気よりも密度が小さいので、これらの気団からの空気の流れが衝突すると、小笠原気団からの暖気の流れが上昇気流となって雲が発生する。